

日本都市社会学会ニュース

No. 130(2025. 4. 1)

事務局：〒512-8512 三重県四日市市萱生町 1200
四日市大学総合政策学部 三田泰雅研究室内
E-mail: usocio@urbansocio.sakura.ne.jp Tel: 059-340-1405
urbansociojp@gmail.com
(振替口座：00140-4-703976) URL: <http://urbansocio.sakura.ne.jp/>

日本都市社会学会第 43 回大会

歓迎の言葉 木田勇輔（大会実行委員長）

日本都市社会学会第 43 回大会は、2025 年 9 月 10 日（水）・11 日（木）の日程で、椋山女学園大学星が丘キャンパスで開催いたします。

椋山女学園は 1905 年に椋山正式、今子夫妻の開校した名古屋裁縫女学校をその起源とします。大学が設置されたのは 1949 年のことで、家政学部から出発して徐々に学部学科を拡張していきました。2024 年 4 月には大規模な改組を行い、星が丘キャンパスでは外国語学部（英語英米学科・国際教養学科）・情報社会学部（情報デザイン学科・現代社会学科）の二学部が開設されるとともに、日進キャンパスでは人間関係学部人間共生学科が開設されました。

会場となる星が丘キャンパスは市内東部の丘陵地に所在しており、地下鉄東山線星ヶ丘駅から徒歩 5 分ほどのところにあります。キャンパスの所在する星ヶ丘の地は、住宅公団の団地建設（1957 年入居開始）をきっかけに発展したという歴史を持っています。椋山女学園大学がキャンパスをこの地に移転したのは、1962 年のことでした。ここ最近では、駅周辺の再開発と連動してキャンパスのリニューアルが始まりつつあります。

開催に先立って、本大会の実行委員会を立ち上げました。実行委員長を木田が、開催校責任者を金南咲季会員が務めます（4 月から木田が中京大学に異動するためこのような体制となりました）。色々とお不便をおかけすることもあるかもしれませんが、素晴らしい大会となるよう全力を尽くしてまいりますので、多くの会員にご参加いただけますようお願い申し上げます。

（開催校担当理事 木田勇輔）

大会企画（企画委員会報告）

企画委員会では、2024 年 12 月 3 日に第 2 回委員会を、2025 年 1 月 28 日に第 3 回委員会をオンラインにて開催し、いずれも、次回の学会大会の企画について検討しました。

第 43 回大会では、例年どおり、シンポジウム、テーマ部会、ラウンドテーブルを実施します。まず、今回のシンポジウムのテーマは、「危機の時代における都市——食から見えてくる展望」です。第 42 回大会のテーマ部会では、「フードスタディズ」をキーワードに掲げて、「食」という切り口から都市社会学

的研究の可能性を探究しました。そこで得た知見をふまえて、次回のシンポジウムでは、同じく「食」に着目しつつ、危機の時代における都市の諸相について議論を展開します。

また、テーマ部会では、「オールドカマー研究とニューカマー研究の〈接続〉とは何か?」と題して、日本におけるエスニシティ研究の新たな展開の可能性を探ります。この企画のもととなった第42回大会のラウンドテーブルでは、オールドカマー研究とニューカマー研究の〈接続〉を試みようとしてきました。このテーマ部会は、そもそも両者の〈接続〉とは何かという問いを設定し、より多角的な視点からこの概念の再検討を行ないます。

続いて、ラウンドテーブルのテーマは、「『モノ』から都市を考える」です。モノそのものに照準を合わせることで、今日の都市社会の何がどのように浮かび上がってくるのかについて、活発な議論が展開されることを期待しています。昨年と同様に、今回のラウンドテーブルでも、話題提供者を募集いたします。ぜひふるってご応募ください。

なお、近年、学会大会で配布される資料についてもペーパーレス化が進んでおり、現在、企画委員会でもこれにどう対応するかを検討しています。詳細につきましては、次号の学会ニュースでお知らせする予定です。

それから、企画委員会では、このたび、本学会の会員として「学部生会員」という新区分が設けられたことを受け、学部生の学会報告のあり方について議論しました。報告にあたって何らかの要件を付すこと（たとえば、事前に教員による指導を受けるなど）も検討しましたが、結果として、現時点では特に要件を設けないことになりました。学部生の会員が増え、なおかつ、積極的に学会大会の自由報告に挑戦してくれることを大いに期待しています。また、会員のみならず、ぜひ学部生にお声かけください。

(企画委員会委員長 二階堂裕子)

【ラウンドテーブル】

【「モノ」から都市を考える】

ここ数年、日本都市社会学会において繰り返し提起された論点の一つに、都市における「モノ」に代表される非人間アクターの扱いはある。

もちろん、これまで都市社会学においてモノや物質性がまったく問われてこなかったわけではない。新都市社会学の集合的消費という概念はインフラをめぐる政治に焦点を当て、マルクス主義的都市論は建造環境に着目することで、金融資本主義による都市再開発のダイナミズムを解き明かしてきた。

しかしながら、人類学などの影響を受けつつ、アクターネットワーク理論や「アッサンブラージュ」などの概念を用いながら取り組まれている研究では、人間中心的な視座を批判しつつ、よりモノそのものに照準を合わせることによって、既存の研究とは異なる視点に目を向けつつある。物質は人間とは異なる空間的・時間的スケールを呼び込むことによって、「都市」そのものについても再考を迫るポテンシャルを有している。

以上のように、モノや物質性という論点は都市社会学において多様な展開を見せつつある。だが、その分析方針について必ずしも確立した方針があるとはいえず、現状は各研究者が試行錯誤しつつ、分析対象に即した形で研究方針を導いている。したがって、本ラウンドテーブルでは、モノや物質性という極めて幅広い含意を持つキーワードをもとに、都市社会学における分析方針の展開について、幅広く意見交換を実施したい。

(企画担当委員 伊藤泰郎・仙波希望・中川雄大・仁井田典子)

[テーマ部会]

【オールドカマー研究とニューカマー研究の〈接続〉とは何か？】

本年度のラウンドテーブルでは「オールドカマー研究とニューカマー研究の〈接続〉を模索するという趣旨のもと、移民政策や宗教、住宅格差など、各報告者のフィールドから〈接続〉にかかわる議論が行われた。しかし、これらの〈接続〉を考える際、そもそも〈接続〉とは何なのか、どのレベルでの〈接続〉を問うているのかという、〈接続〉自体の意味や、そのあり方について、課題として残った。戦後の在日朝鮮人政策は、その後の日本の外国人政策にも適用され、現在の移民をめぐる研究が提起する数多くの課題にもつながっている。

そこには、国家形成のために、バックドア、サイドドア、フロントドアと、さまざまな政策を通じて、外国人を受け入れてきた日本社会の問題がある。国家は、法や福祉を利用しつつ、外国人を選別・排除し、権利をはく奪しながら統制する。また、資本は従属的な労働者として労働市場の底辺部へと包摂する。都市もまた、外国人の監視と統制の空間として機能してきた。こうした現状の中、日本におけるエスニシティ研究は都市社会学のなかでも重要なテーマであり続けてきた。都市のローカルな空間における「共生」の実態を照射してきた研究が再考され、全国規模・地域横断的な移民研究が進められつつあるなか、都市とエスニシティの接続も新たな展開可能性を迎えているといえる。そこで本テーマ部会では、これらの〈接続〉そのものについて正面からとらえ、〈接続〉の方法や困難さ、およびその可能性／不可能性などを、あらためて会場の皆さんと共有する機会としたい。当日は、都市社会学の観点から、エスニシティ研究におけるこれらの〈接続〉を捉えるための理論的な展望を目指すとともに、実践における〈接続〉の意味や方法についても検討する。

【司会】山本かほり

【庶務・運営】八木寛之、申恵媛

【報告者】鄭康烈（非会員・PD 早稲田大学）、金和永（いくの多文化プラットフォーム関係者）、吉田舞（北九州市立大学）

【コメンテーター】渡戸一郎、山本崇記

（企画担当委員 山本かほり・申恵媛・八木寛之・山本崇記・吉田舞）

[シンポジウム]

【危機の時代における都市——食から見えてくる展望】

第43回大会のシンポジウムでは、危機の時代における都市社会学の展望を、食を切り口に探索し共有したい。去る第42回大会では「都市社会学の境界を「不可視」から再審する」をテーマにシンポジウムが持たれた。そこでは都市社会学の限界と可能性が、無自覚に/自覚的に目が向けられてこなかった対象——ジェンダー・クィアと自然・モノから捉え返された。前者は人間の身体をめぐる何ごとかであり、後者は人間をとりまく環境である。その両者が「食べること」や「食/フード」を通じて接続しうるのは容易に想像できよう。

奇しくも第42回大会は「都市社会学とフードスタディズのクロスロード」と題するテーマ部会が開かれた。そこではシカゴ学派から継承した社会地図分析をフード・デザートへのアプローチとして現代的に展開する研究や、社会運動を基盤として公共性を展望する新都市社会学の精神を有機農業・都市農

業をベースに発展させる研究が紹介された。言わば「食」という切り口から、人口減少、そしてフードシステムの危機といった現代的状況への接近が、都市社会学の方法論的蓄積を踏まえてなしうる可能性が示唆された。同時に気づかされたのが、私たちが惑星的な岐路に立たされていることである。グローバルフードシステムの拡大と浸透は、栄養塩循環の不可逆な棄損、人獣共通感染症の間歇的発生、生活習慣病の定着など、私たちの環境と身体を持続可能性を危機にさらしてもいる。だがそうした事態は都市社会学が暗黙の前提としてきた都市なるもの、そして都市化と無縁ではない。

そこで本シンポジウムでは昨年度のシンポジウムとテーマ部会での知見を総合・発展させるべく「食」を切り口に、あらためて都市社会学の限界と可能性を探りたい。「食」という視点を立てたとき、都市社会学は自らの拠って立つ都市そのものの揺らぎを深く自覚せざるをえない。そのうえでどう議論を、とりわけ現場の人びととともに実践をも組み立て直せるのか——この解きがたい問いをみなさんと共有し、ともに挑みたいと思うのである。

(企画担当委員 笹島秀晃・二階堂裕子・平井太郎・松宮朝)

自由報告の募集

第 43 回大会の自由報告を募集します。どうぞ奮ってお申し込みください。なお、自由報告の申し込みと同時に報告要旨を提出していただき、7 月発行の「学会ニュース」(第 131 号)に自由報告要旨を掲載することになっております。自由報告を希望される会員は、下記の要領で、自由報告の申し込みと自由報告要旨の提出を同時に行ってください。提出後の内容の修正は受け付けません。

第 43 回日本都市社会学学会大会 報告申込フォーム

※ラウンドテーブル・自由報告共通です。

申し込み方法

2025 年 6 月 2 日 (月) 18 時締め切り。メールアドレス、代表者氏名、報告者氏名および所属 (共同報告の場合は登壇者に○)、報告タイトル (仮題は不可)、報告要旨 (1,000 字以内)、発表時に使用する機器等を以下のフォームにご記入ください。

申し込み先：日本都市社会学学会第 43 回大会報告申込フォーム

<https://forms.gle/4QsubJvk3fP4XPed7>

申し込み締め切りを過ぎたものについては、一切受け付けないことになっています。メンテナンスなどのためにサーバーが一時不通になることもありますので、くれぐれも余裕を持って申し込みされるようお願いいたします。



注意事項 (必ずお守りください！)

・共同報告の場合、登壇者は日本都市社会学学会の会員に限ります。なお、未入会の方が報告を希望される場合は、申込みを行う前に入会の手続きをお済ませください。入会手続きについては学会ホームページをご覧ください。

・報告要旨は「報告の要旨」を会員に事前にお知らせすることを目的としておりますので、図表は入れ込まず、文章のみ 1,000 字以内で作成してください。

・この要領に反し、本文が 1,000 字を超えていたり、図表が入っていたりする場合は、数日以内で訂正をお願いすることになります。また、期限内に訂正されない場合は、報告を放棄されたものとみなしますので、ご注意ください。

(事務局担当理事 三田泰雅)

会員の皆さまへのお知らせ

災害等による会費免除措置について

政府により激甚災害に指定された災害で被災した日本都市社会学会会員に対し、申請のあった年度の年会費を全額免除します。申請が理事会で承認された後に適用となります。すでに納入済の場合は翌年度以降の年会費に充当いたします。2024 年以降に発生した災害が対象となります。

対象：一般会員および学生会員

金額：一般会員 6,500 円・学生会員 4,000 円

期間：対象の災害毎に理事会で決定

申請方法：下記フォームに必要事項を記入して送信

<https://forms.gle/EyHxpzT5D5bxUJXZ8>

(事務局担当理事 三田泰雅)

将来構想基金による国際学会参加等支援の選考結果について

2025 年度の将来構想基金による国際学会参加等支援の募集（2025 年 1 月末申し込み締め切り）を行いましたが、応募がございませんでした。2026 年度の将来構想基金による国際学会参加等支援の募集は 11 月発行のニュースに掲載予定です。

(事務局担当理事 三田泰雅)

理事会報告

2024-5 年度第 2 回理事会が 2025 年 2 月 16 日（日）18 時より Zoom にて開催されました。第 43 回大会の企画（企画委員会報告）、年報 43 号の準備状況（編集委員会報告）、韓国地域社会学会との交流状況（国際交流委員会報告）等々について、各委員長・担当理事より報告がありました。また大会での学部学生会員の報告や、報告時の資料配布について検討が行われたほか、学会ニュース 130 号の内容、入退会の承認について、それぞれ審議されました。

(事務局担当理事 三田泰雅)

編集委員会報告

(1) 『日本都市社会学会年報』第 43 号の編集が進んでいます。特集は「都市社会学の境界を「不可視」から再審する」を予定しています。

(2) J-stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jpasurban/-char/ja/>) で『日本都市社会学会年報』第 41 号（2023 年発行）までが閲覧できます。学会 WEB サイトにもリンクが貼られていますので、ご利用ください。

(編集委員会委員長 川野英二)

『日本都市社会学会年報』第44号 自由投稿論文・研究ノートの募集

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』第44号(2026年9月発行予定)に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」「書評リプライ」の原稿を募集します。会員諸氏の、奮っての投稿をお待ちしています。投稿を希望される方は、本会ウェブページ(<https://urbansocio.sakura.ne.jp/paper.html>)に掲載されている投稿規定および執筆要項を遵守した原稿を作成のうえ、2025年11月30日までに、原稿の word ファイルおよび PDF ファイルの2点を添付して、下記の編集委員会事務局および学会事務局宛にメール送信してください。投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

(送付先) ([at]を@に変えて送信してください)

日本都市社会学会編集委員会事務局 kawano[at]omu.ac.jp

日本都市社会学会事務局 usocio[at]urbansocio.sakura.ne.jp

(編集委員会委員長 川野英二)

国際交流委員会報告(国際交流委員会) 報告者の募集

今年度は韓国地域社会学会の方々が日本都市社会学会大会へ参加して、日韓ジョイント・セッションが行われます。

テーマは「多文化都市における分断(仮)」です。「多文化」化する日韓の都市の諸相とそこで生じている分断の諸相(階層的・政治的・文化的…)をテーマとして、場合によっては、そうした分断を調停しようとする、あるいは乗り越えようとする諸実践も射程に入れたセッションとしたいと考えています。両学会の交流が益々深まる、実り多いセッションとなること期待しております。

同セッションの報告について、本学会から2名の報告者を募集します。奮ってお申し込みください

申し込み方法: 2025年6月6日(金)までに、報告者氏名・所属、報告タイトル、報告要旨を妻木(tsumaki[at]biz.ryukoku.ac.jp)までお送りください([at]を@に変えて送信してください)。報告言語・資料言語は英語または日本語です(日本語の場合は通訳あり)。

積極的なご応募をお待ちしています。

(国際交流委員会委員長 妻木進吾)

会員異動

新入会員(2025年2月16日理事会承認)

<中部・近畿地区>

津田壮章(京都大学)

退会(2025年2月16日理事会承認)

傅 昱

長光太志

(事務局担当理事 三田泰雅)

学会事務局からのお知らせ

2025 年度 会費納入のお願い

年会費は一般会員が 6,500 円、学生会員が 4,000 円となっております。2024 年度 (2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日) の会費をまだお支払いいただいている会員の皆様、できるだけ早めの納入をお願いいたします。



オンライン入金もできます。ゆうちょダイレクトの QR コードをご活用ください。

ゆうちょダイレクトログイン：

https://direct.jpbank.japanpost.jp/tp1web/U010101WAK.do?link_id=ycDctLgn

2024 年度までの学会費をまだ納入されていない会員の皆様は、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入していただきますよう重ねてお願い申し上げます。継続して 3 年以上会費を滞納した場合、原則として会員の資格を失うこととなりますので (学会規約 13 条)、その旨ご留意ください。

本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、全国の金融機関 (一部を除く) との相互振込が可能です。他の金融機関から本学会の口座に振り込む場合は、以下の店名・預金種類・口座番号・受取人名をご指定ください。

銀行名 ゆうちょ銀行

預金種類 ... 当座

金融機関コード ... 9900

口座番号 ... 0703976

店番 019

受取人名 ... ニホントシシャカイガツカイ

店名 (カナ) 〇一九 (ゼロイチキュウ店)

会員管理サービス SMOOSY の導入について

会員情報をご自身で管理できるようになります

2025 年度より会員管理サービス SMOOSY を導入いたします。会員のみなさまは会員情報をご自身で管理できるようになります。

学会ホームページの移転およびメールアドレスの変更

サービス導入にあわせて学会ホームページとメールアドレスも変更を予定しております。新しいホームページの URL は (<https://urbansocio.smoosy.atlas.jp/ja>) となります。なお当面は現行の HP と並行して運用し、2025 年度中に移行を完了する予定です。

同じく学会メールアドレスの変更も予定しております。今後学会からのご連絡は urbansociojp@gmail.com よりお送りする予定です。なおこちらも当面は現在のメールアドレスと並行して運用してまいります。

学会ニュースの配信

今年度より学会ニュースをオンラインでも配信することになりました。ご登録のメールアドレスへpdfファイルのリンクをお送りします。

会費納入方法の変更

クレジットカードで会費を納入していただけるようになります。会員の皆様には準備が整いましたらメール等でご案内を差し上げます。

(事務局担当理事 三田泰雅)